

## 社会学部報

### ◇学部講演会および研究会

- 1997年5月7日(水)(研究会例会)  
荻野 昌弘 助教授  
「ビデオ映像からみた現代世界と宗教  
—中国雲南省ニス一族の祭儀、シンガポール  
華人の信仰、フランスにおける巡礼—」
- 1997年6月11日(水)(研究会例会)  
Fumiko Ikawa-Smith (井川史子) 氏  
カナダ研究 客員教授  
「イデオロギーとしての単一民族論と日本考  
古学」
- 1997年7月2日(水)(研究会例会)  
八木 克正氏 社会学部教授  
「日本語音韻の仕組み」
- 1997年10月7日(火)(研究会特別例会)  
神学部・文学部・社会学部共催  
講師 オリヴィエ・ミエ氏  
パリ第12大学教授  
バーゼル大学教授兼任  
「フランス・プロテスタンチズムの現況」
- 1997年10月8日(水)(学術講演会)  
神学部・文学部・社会学部共催  
講師 オリヴィエ・ミエ氏  
パリ第12大学教授  
バーゼル大学教授兼任  
「カルヴァンとその時代の文化」

### ◇社会学部教職員人権問題研修会

- 1997年6月11日(水)  
講師 鳥飼 慶陽氏  
番町出会いの家 牧師  
神戸保育専門学院 中京女子大学  
非常勤講師  
兵庫部落問題研究所事務局長  
テーマ「部落問題の現在」

### ◇海外出張

- 鳥越 皓之 教授  
3月28日から4月2日まで  
社会学実習を韓国で行うため、韓国へ
- 川久保 美智子 助教授

- 5月2日から5月9日まで  
国際共同研究調査(中国山東省小高家村の家  
族制度—10年間における変化についての面  
接)実施のため、中国へ
- 牧 正英 教授  
5月4日から5月11日まで  
ボン大学日本文化研究所及びフランス国立社  
会科学高等研究院現代日本研究所との学術交  
流協定の推進のため、ドイツ及びフランスへ
- 真鍋 一史 教授  
5月4日から5月10日まで  
ボン大学日本文化研究所及びフランス国立社  
会科学高等研究院現代日本研究所との学術交  
流協定の推進のため、ドイツ及びフランスへ
- 真鍋 一史 教授  
5月10日から5月15日まで  
ISSP(国際社会調査プログラム)のメンバー  
として参加しているNHKからの委嘱を受  
け、年次総会での調査票作成の作業に参加す  
るため、オランダへ
- 船本 弘毅 教授  
7月10日から7月12日まで  
APFCS(アジア・環太平洋キリスト教学校  
連盟)の第1回常任委員会に出席のため、  
フィリピンへ
- 久保田 稔 教授  
7月17日から7月28日まで  
国際糖尿病学会参加のため、フィンランドへ
- 藤戸 淑子 教授  
7月22日から8月27日まで  
University of London, Birkbeck College の  
夏期講習聴講及び資料収集のため、イギリス  
へ
- 八木 克正 教授  
7月26日から8月9日まで  
The 24th LACUS Forum において研究報告  
するため、カナダへ
- ルース M. グルーベル 助教授  
7月29日から8月4日まで  
パシフィック大学英語研修の引率のため、ア  
メリカへ
- 岡田 弥生 助教授  
7月30日から8月9日まで

- エリオットのアングロカソリズムの資料収集のため、イギリスへ
- 船本 弘毅 教授  
8月1日から8月10日まで  
Habitat for Humanity International に参加する社会学部、総合政策学部の学生を引率するため、フィリピンへ
  - 山本 剛郎 教授  
8月3日から9月7日まで  
インドにおける新たな階級の台頭とカースト・システムにおける「差別化」の動態に関する調査・研究のため、インドへ
  - 宮田 満雄 教授  
8月4日から8月9日まで  
神戸YMCA 理事長として北京及び天津YMCA 公式訪問のため、中国へ
  - 山路 勝彦 教授  
8月5日から9月11日まで  
台湾での社会人類学的調査のため、台湾へ
  - ルース M. グルーベル 助教授  
8月5日から9月1日まで  
93回アメリカ政治学会で発表するため、アメリカへ
  - 谷 直子 専任講師  
8月14日から8月20日まで  
アメリカ心理学会105回大会出席及び資料収集のため、アメリカへ
  - 高坂 健次 教授  
8月16日から8月23日まで  
モンゴル社会の視察のため、モンゴルへ
  - 藤原 武弘 教授  
8月18日から9月2日まで  
サンチャゴ・デコンポステラへの巡礼者に対する調査並びに資料収集のため、スペインへ
  - 浅野 仁 教授  
8月25日から8月31日まで  
研究演習 I、II におけるアジア諸国の福祉事業の研修のため、中国（香港）、タイへ
  - 川久保 美智子 助教授  
8月29日から9月15日まで  
吉林大学との交流のため、中国へ
  - 荻野 昌弘 助教授  
9月2日から9月14日まで  
文部省科学研究費国際共同研究「制度としての文化財・博物館」で調査を行うため、フランスへ
  - 牧 正英 教授  
9月8日から12日まで  
中国人民大学との交換研究員として、中国へ
  - 宮田 満雄 教授  
9月8日から9月10日まで  
同窓会シンガポール支部出席のため、シンガポールへ
  - 杉山 貞夫 教授  
9月8日から9月18日まで  
職業安全、健康、エルゴノミクスと環境に関する国際学会からの招聘に応じ出席のため、中国へ
  - 高坂 健次 教授  
9月8日から9月16日まで  
職業安全、健康、エルゴノミクスと環境に関する国際学会からの招聘に応じ出席のため、中国へ
  - 石川 明 教授  
9月9日から9月25日まで  
ジャーナリストの「良心条項」や放送とプレスにおける「内部的自由」について研究者への聞き取り、関連資料の収集を行うため、及び西部・北ドイツの公共放送協会の放送現場での聞き取り調査を実施するため、ドイツへ
  - 高坂 健次 教授  
9月17日から9月21日まで  
アジア太平洋社会学会組織委員会及び大会運営のため、マレーシアへ
  - ルース M. グルーベル 助教授  
9月28日から10月4日まで  
Environmental Justice : Global Ethics for the 21st Century メルボルン大学国際大会で発表するため、オーストラリアへ
  - アラン・ブレイディ 助教授  
10月2日から10月6日まで  
IATEFL・SIG 及び British Council 合同主催による英語・語学・文化・教育をテーマにした国際学会において研究報告を行うため、ブルガリアへ
  - 山路 勝彦 教授

10月4日から10月12日まで

文部省科研費による学術調査打ち合わせ及び  
社会人類学的調査のため、台湾へ

○山路 勝彦 教授

12月17日から12月23日まで

インドネシアでの社会人類学的調査のため、  
インドネシアへ

◇海外出向

○真鍋 一史 教授

9月17日から1998年3月15日まで

ドイツ・ボン大学において「価値観の国際比較」に関する共同研究に従事するとともに大学院修士・博士課程の学生を対象に「日本社会・世論・コミュニケーション」に関する「講義」「論文指導」「実習」を担当するため、ドイツへ

◇留 学

○森川 甫 教授

1997年4月14日から1997年9月27日

- 1) パスカルの『プロヴァンシアルの手紙』に関する研究
- 2) フランス・プロテスタントの研究のため  
パリ・ソルボンヌ大学へ

○荒川 義子 教授

1997年4月13日から1998年4月12日

社会福祉教育・特に社会福祉実習教育及び卒業教育の方法の研究のため U. S. A へ

◇新刊書紹介

○藤原 武弘 教授 (共著)

『人間知 一心の科学』

ナカニシヤ出版 1997. 2

○山本 剛郎 教授 (分担執筆)

「福音会沿革史料」

同志社大学人文科学研究所編

『在米日本人社会の黎明期—「福音会沿革史料」を手がかりに』

現代史料出版編 1997. 2

○倉田 和四生 名誉教授 (編著)

「多民族社会の構造と変動」

『北米都市におけるエスニック・マイノリ

ティ』

ミネルヴァ書房 1997. 3

○難波 功十 専任講師 (分担執筆)

「CM/受け手/社会」

JNN データバンク編

『データによる効果的なメディア戦略』

誠文堂新光社 1997. 3

○宮原 浩二郎 教授 (分担執筆)

「フーコーのいう権力」

『現代社会学の理論と方法』

岩波書店 1997. 3

○山本 剛郎 教授 (著)

『都市コミュニティとエスニシティ』

ミネルヴァ書房 1997. 3

○藤原 武弘 教授 (著)

『社会心理学』

培風館 1997. 4

○高田 真治 教授 (分担執筆)

「地域医療福祉計画の理論」

小田兼三・竹内孝仁編集

『医療福祉学の理論』

中央法規出版 1997. 5

○久保田 稔 教授 (分担執筆)

「運動療法」

『専門医のための糖尿病学レビュー '97—最新主要文献と解説—』

総合医学社 1997. 5

○武田 建 教授 (著)

『最新コーチング読本』

ベースボール・マガジン社 1997. 6

○船本 弘毅 教授 (共著)

『信仰30問30答』

日本基督教団出版局 1997. 6

○立木 茂雄 教授 (編著)

『ボランティアと市民社会』

晃洋書房 1997. 6

○荒川 義子 教授 (分担執筆)

「救援ボランティア委員会におけるボランティア・マネジメントの実際」

関西学院 H. S. C.・立木 茂雄 編著

『ボランティアと市民社会』

晃洋書房 1997. 6

○森川 甫 教授 (分担執筆)

「恩寵論からみたパスカルの『パンセ』」

キリスト教文化学会編

『キリスト教と欧米文化』

ヨルダン社 1997. 6

○川久保 美智子 助教授(分担執筆)

「働く女性の意識変化」

深津 比佐夫 編著

『変革期の企業システム』

御茶の水書房 1997. 7

○山本 剛郎 教授(共編)

『福音会沿革史料』

現代史料出版 1997. 7

○鳥越 皓之 教授(著)

『環境社会学の理論と実践』

有斐閣 1997. 7

## 学会消息

### ◇日本英語コミュニケーション学会

- 4月26日(土)、近畿大学において、関西支部研究フォーラムを開催、コメンテーター八木克正教授の司会で、大阪大学大学院博士課程後期在学の高木佐知子氏による「英語トーク番組におけるジョークの一考察」と、大阪青山短期大学講師の堀智子氏による「英語教育におけるグローバル性の追求」を聞いた。

### ◇関西社会学会

- 第48回関西社会学会大会が1997年5月24日(土)、25日(日)の両日、金城学院大学において開催された。本学関係者の司会・発表は以下のとおりである。

＜司 会＞

宮原浩二郎教授は「理論・学説Ⅰのセッション」、山本剛郎教授は「阪神・淡路大震災Ⅱのセッション」でそれぞれ司会を努めた。

＜研究発表＞

真鍋一史教授が研究報告Ⅱ『文化・価値のセッション』で「価値観の研究の視座—その測定方法と領域をめぐって—」と題する研究発表を行った。

荻野昌弘助教授が重点部会第2部会『現代社会学理論の争点—虚構と現実をめぐって』で「現実の歴史的構成—相互行為を超えるも

の—」と題する報告を行った。

### ◇異文化間教育学会

- 第18回異文化間教育学会大会が、1997年5月31日(土)、6月1日(日)の両日、龍谷大学で開催された。本学からは藤原武弘教授が出席し、「日本人チューターの異文化接触体験」と題する研究発表を行った。又、自由研究発表のセッションで、真鍋一史教授が、「日本語の国際化を考える指標」と題する研究発表を行った。

### ◇日本マス・コミュニケーション学会

- 1997年度総会および春季研究発表会は、5月31日(土)、6月1日(日)両日、東北福祉大学において行われた。本学部からは、石川明教授、芝田正夫教授、難波功士専任講師、津金澤聰廣教授の4名が出席した。第一日のシンポジウム「市民社会における報道の見直し」には石川明教授が共同司会を担当した。なお、津金澤聰廣教授は第26期理事に選出され、総会で承認された(将来計画委員会担当)。

### ◇日本消費者行動研究学会

- 第14回消費者行動研究コンファレンスが、1997年6月6日(金)、7日(土)の両日、関西学院大学において開催された。本学部からは、真鍋一史教授が統一論題のセッションで「広告と消費者行動—そのリアリティと測定をめぐる方法論的考察—」と題する研究発表を行うとともに、シンポジウムでの討論に参加した。

### ◇日本地域福祉学会

- 日本地域福祉学会は、6月7～8日、沖縄県沖縄市民会館と琉球大学で開催された。大会テーマは「分権化と地域福祉～地域福祉の原点を求めて～」で、高田眞治教授と大学院博士後期課程の李永喜さんと瓦井昇君が参加した。李は「町レベルにおける住民参加の諸相と住民の意識—老人保健福祉計画の策定前後を通して—」、瓦井は兵庫県社会福祉協議会

の共同研究である「仮設住宅支援における福祉コミュニティ支援活動に関する調査研究—Ⅲ『福祉コミュニティ支援の有効性について』」を報告した。

#### ◇日本広報学会

- 1997年度総会が6月9日に開催され、第3回研究発表大会が、本学において来る11月29日(土)、30日(日)両日開催されることが正式に決定した。関係各位のご協力ご教示を何卒よろしく願いたい。なお、現在、本学部の日本広報学会会員は、真鍋一史教授、山本剛郎教授、立木茂雄教授、川久保美智子助教授、難波功士専任講師、津金澤聰廣教授(理事)の6名である。

#### ◇英語音声学会

- 6月13日(土)、筑紫女学園大学において、第2回全国大会を開催、18の研究報告の他、イギリスの音声学者 Jack Windsor Lewis 教授の “Practical English Phonetics with Special Regard to Rhythm and Intonation” (「リズムとイントネーションに関する実践的英語音声学」) の題で講演が行われた。八木克正教授は「音声と音韻—英語と日本語を材料に」の題で、音声と音韻という基本的な考え方について、日本語と英語の具体的な史料分析に基づく研究報告をした。

#### ◇日本社会学会

- 平成9年度日本社会学会大会が、1997年6月28日(土)と29日(日)の両日、秋田経済法科大学において開催された。

本学からは荻野昌弘助教授がシンポジウム「意味・解釈の社会学再考」で討論者をつとめた。

#### ◇三田社会学会

- 本年度の三田社会学会大会が1997年7月12日(土)慶応義塾大学において開催された。本学からは、真鍋一史教授が「価値観の研究—そのリアリティと測定をめぐる方法論的考察—」と題する研究発表を行った。

#### ◇LACUS (Linguistic Association of Canada and the United States)

- 7月29日から8月2日まで、第24回フォーラムを、カナダのトロント郊外にあるヨーク大学で開催、Michel Paradis 教授による “Prerequisites for a Neurolinguistic Investigation of Bilingualism” (「バイリンガリズムの神経言語学的研究の前提条件」) の題の基調講演の他、世界の各種言語あるいは言語研究の方法などについて85の研究報告があった。八木克正教授は8月2日に、“Patterning of Adjectives : How to Deal with Adjectives in Learner’s Dictionaries” (「形容詞型：学習辞典における形容詞の扱い方」) 題で、英語の記述と辞書学の充実のために「形容詞型」という概念の導入の必要性を説く研究報告を行った。

#### ◇JOINT MEETING OF THE 45TH CONFERENCE OF THE JAPANESE GROUP DYNAMICS ASSOCIATION AND THE SECOND CONFERENCE OF THE ASIAN ASSOCIATION OF SOCIAL PSYCHOLOGY

- JOINT MEETING OF THE 45TH CONFERENCE OF THE JAPANESE GROUP DYNAMICS ASSOCIATION AND THE SECOND CONFERENCE OF THE ASIAN ASSOCIATION OF SOCIAL PSYCHOLOGY が、1997年8月4~6日に京都の国際会議場で開催された。本学からは藤原武弘教授が出席し、「The Measurement of Extended Self」(本学大学院後期課程、池内裕美との共同研究) と題する研究発表を行った。

#### ◇日本社会心理学会

- 第38回日本社会心理学会が、1997年9月5日(金)、6日(土)に立教大学で開催された。本学からは藤原武弘教授が出席し、「日本人学生のソーシャル・サポート・ネットワーク：日本人学生チューターと留学生との比較」、「阪神大震災による拡張自己の非自発的喪失」(本学大学院後期課程、池内裕美との共同研究) と題する研究発表を行った。

執筆者紹介(掲載順)

|                |                              |                  |                             |
|----------------|------------------------------|------------------|-----------------------------|
| 牧 正 英          | 関西学院大学社会学部教授                 | 栗 田 真 樹          | 吉備国際大学社会学部講師                |
| オーギュスタン・ベルク    | フランス国立社会科学高等研究院<br>現代日本研究所教授 | 種 田 博 之          | 関西学院大学大学院<br>社会学研究科博士課程後期課程 |
| 紺 田 千 登 史      | 関西学院大学社会学部教授                 | 豊 島 慎 一 郎        | 関西学院大学大学院<br>社会学研究科博士課程後期課程 |
| 中 山 和 代        | 関西学院大学社会学部兼任講師               | 栗 本 か お り        | 関西学院大学大学院<br>社会学研究科博士課程後期課程 |
| 森 川 甫          | 関西学院大学社会学部教授                 | 岩 本 茂 樹          | 関西学院大学大学院<br>社会学研究科博士課程後期課程 |
| 倉 田 和 四 生      | 関西学院大学名誉教授                   | 三 毛 美 予 子        | 関西学院大学大学院<br>社会学研究科博士課程後期課程 |
| 佐々木 薫          | 関西学院大学社会学部教授                 | 真 鍋 一 史          | 関西学院大学社会学部教授                |
| 難 波 功 士        | 関西学院大学社会学部専任講師               | Ronald Inglehart | 米国ミシガン大学政治学部教授              |
| 脇 本 忍          |                              | 中 野 秀 一 郎        | 関西学院大学名誉教授                  |
| 藤 原 武 弘        | 関西学院大学社会学部教授                 |                  |                             |
| ヘスース・マルチン・ラミレス | コンプレテンス大学心理学部教授              |                  |                             |

社会学部研究会会員

|         |             |             |            |  |  |
|---------|-------------|-------------|------------|--|--|
| 会 長     | 牧 正 英       |             |            |  |  |
| 運 営 委 員 | 浅 野 仁       | 森 川 甫       | 津 金 沢 聡 廣  |  |  |
|         | 安 藤 文 四 郎   | 川 久 保 美 智 子 | 三 浦 耕 吉 郎  |  |  |
| 会 計 監 査 | 中 山 慶 一 郎   | 宮 田 満 雄     |            |  |  |
| 書 記     | 土 屋 明 生     |             |            |  |  |
| 名 誉 会 員 | 本 出 祐 之     | 半 田 一 吉     | J. A. ジョイス |  |  |
|         | 小 関 藤 一 郎   | 倉 田 和 四 生   | 萬 成 博      |  |  |
|         | 中 野 秀 一 郎   | 西 尾 朗       | 西 山 美 瑳 子  |  |  |
|         | 岡 村 重 夫     | 領 家 穰       | 嶋 田 津 矢 子  |  |  |
|         | 杉 原 方       | 清 水 盛 光     | 田 中 國 夫    |  |  |
|         | (A. B. C 順) |             |            |  |  |
| 普 通 会 員 | 杉 山 貞 夫     | 武 田 建       | 牧 正 英      |  |  |
|         | 佐々木 薫       | 森 川 甫       | 張 光 夫      |  |  |
|         | 中 山 慶 一 郎   | 宮 田 満 雄     | 船 本 弘 毅    |  |  |
|         | 津 金 澤 聡 廣   | 春 名 純 人     | 紺 田 千 登 史  |  |  |
|         | 村 川 満       | 真 鍋 一 史     | 山 路 勝 彦    |  |  |
|         | 山 本 剛 郎     | 高 田 真 治     | 鳥 越 皓 之    |  |  |
|         | 荒 川 義 子     | 安 藤 文 四 郎   | 浅 野 仁      |  |  |
|         | 高 坂 健 次     | 石 川 明       | 對 馬 路 人    |  |  |
|         | 芝 田 正 夫     | 芝 野 松 次 郎   | 藤 原 武 弘    |  |  |
|         | 宮 原 浩 二 郎   | 藤 戸 淑 子     | 立 木 茂 雄    |  |  |
|         | 田 中 耕 一     | 居 樹 伸 雄     | 八 木 克 正    |  |  |
|         | 奥 野 卓 司     | 久 保 田 稔     | 大 谷 信 介    |  |  |
|         | A. ブレイディ    | 川 久 保 美 智 子 | 荻 野 昌 弘    |  |  |
|         | 三 浦 耕 吉 郎   | R. M. グルーベル | 岡 田 弥 生    |  |  |
|         | 谷 直 子       | 難 波 功 士     | 野 波 寛      |  |  |

## 関西学院大学社会学部研究会会則

### 第1章 総 則

#### 第1条

本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。

#### 第2条

本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。

#### 第3条

本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町1—155 関西学院大学社会学部内におく。

### 第2章 事 業

#### 第4条

本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会などの開催
2. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
3. 会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
4. 本学部の教育・研究に対する協力
5. 国内外関係諸学会との協力
6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

### 第3章 会 員

#### 第5条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 名誉会員 本会に功労のあったもので、本会の推薦するもの
2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
3. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの

### 第4章 運営組織

#### 第6条

第2章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。

1. 会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
2. 運営委員（6名）：運営委員は普通会員の中から互選し、運営委員会を構成する。
3. 運営委員長（1名）と会計（1名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
4. 運営委員会は第4条に記された事業の企画・運営にあたる。

なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。

5. 会計監査(2名)：会計監査は普通会員の中から互選する。
6. 書記は社会学部事務長に委嘱する。

第7条

本研究会委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

第5章 総 会

第8条

総会は定期総会と臨時総会とし、会長が主宰する。定期総会は毎年一回開催され、臨時総会は会長が必要と認めたとき、あるいは普通会員の1/2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

第9条

総会の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他運営委員会において必要と認めた事項

第6章 会 計

第10条

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第11条

本会の経費は次の収入をもってあてる。

1. 会 費  
普通会員年額 31,200円  
賛助会員年額 10,000円
2. 寄付および補助助成による金品
3. その他の収入

第12条

本会員および本学社会学部大学院学生・大学院研究員並びに学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年間2,600円とする。

付 則

第1条

本会の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

第2条

本会の会則変更および本会の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、総会において、出席者の2/3以上の同意を得ることを要する。

第3条

本会則は1992年4月1日より施行する。



## 「社会学部紀要」編集内規

1992年4月1日施行

1996年10月23日改正

1. 「社会学部紀要」(以下、本紀要という)は原則として、当該年度中に2回発行する。6月末を締切日とする号は10月上旬の配布を、11月末日を締切日とする号は3月25日の配布を目標とする。
2. 本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会がおこなう。
3. 本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。
  - ①原著
  - ②研究ノート
  - ③学部および社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
  - ④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
  - ⑤社会学部最優秀卒業論文賞(安田賞)受賞論文
  - ⑥その他編集委員会が必要と認めた記事
4. 本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、ならびに普通会員とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会員の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会員と共同研究をおこなった者とする。
 

上記以外の投稿者に関しては普通会員による推薦と編集委員会の審査を経て2名を限度として掲載することができる。

大学院学生ならびに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会員による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。
5. 原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。
  - ①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
  - ②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
  - ③図表、写真等は題字、説明つきですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する個所を本文欄外に指示すること。
 

図表・写真等の費用は50,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。
  - ④原稿には和文および英文の表題、さらに欧文の要約をつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。
  - ⑤原稿に3語のキーワードをつける。
6. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
7. 外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。
8. 編集委員会が依頼した外国語原稿を翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対し翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会で審議の上決定する。
9. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。
 

また、執筆者がすでに外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議のうえ、それを許可することがある。ただし、この場合、著作権処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。
10. 本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷100部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
11. 発行された紀要は名誉会員、普通会員、大学院学生、大学院研究員および学生に配布する。その年度の非常勤講師にも配布する。また、本紀要は上記以外の者に頒布することができる。なお、頒布料は原則として学生の購読料と同額とする。
12. この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

〈編集後記〉

「社会学部紀要」第78号をお届けします。今号は、学部開設35周年を記念して昨年10月に特別講師として招聘しました、フランス国立社会科学高等研究所教授であるオーギュスタン・ベルグ氏の玉稿を掲載した特集号です。本学部紀要のため寄稿を快諾して下さいましたベルグ氏に御礼を申し上げるとともに、翻訳の労をとっていただきました紺田、森川、中山の諸先生に感謝申し上げます。

それに加えて、今号では論文12編、共同研究1編、研究ノート2編の多くの原稿を掲載することができ、かなり大部の刊行物となりました。

前号同様、編集作業では事務室の湯原陽里香主事に大変な御足労をおかけしました。記して感謝の意を表します。 (浅野)

1997年10月20日 印刷

1997年10月30日 発行

編集発行人 牧 正 英  
発行所 関西学院大学社会学部研究会  
〒662 西宮市上ヶ原一番町  
関西学院大学社会学部内  
電話(0798)(54)6202

印刷所 尼崎印刷株式会社  
〒661 尼崎市下坂部3丁目9番20号  
電話 (06)494-1122(代)

**KWANSEI GAKUIN**  
**SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES**

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

---

No. 78

October 1997

---

---

The Study Association of Sociology Department

**KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY**

Nishinomiya, Japan

---